

平成30年度第2回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：平成30年11月21日（木）15時～16時半
場 所：高松市立みんなの病院 1階 みんなのホール

【出席者】

（委員） 会長 谷田 一久（株式会社ホスピタルマネジメント研究所 代表）
副会長 神内 仁（一般社団法人高松市医師会 会長）
二島 多恵（公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表）
藤田 徳子（株式会社フェアリー・テイル 代表取締役）
和田 頼知（有限責任監査法人トーマツ 公認会計士）

（事務局）市職員25名

（傍聴者）10名

開会 15:00～

1 病院事業管理者挨拶

この9月から、高松市立みんなの病院が開院し、高松市立病院は新しいステージに移ったところである。2病院体制になった事に加え、立地や病院の名前も変わり、職員も心機一転頑張っている。会の最後には、移転後の状況を簡単に紹介するつもりである。

今回は、平成29年度の総括評価ということで、御意見、御指導をいただき、新しい病院運営につなげていきたい。

2 議題

（1）高松市病院事業経営健全化計画(平成29年度実績)に係る総括評価について

（会長）

新病院が開院し、そちらの状況が気になるころではあるが、今回は平成29年度実績に対する評価ということで、旧病院に対する評価である。新病院への助走期間ということで、皆さんが努力してきたことを評価したい。

特に委員評価が分かれているところについて、委員の皆様から御意見をいただきたい。

まず市民病院についてであるが、「医師確保」の項目について、若干意見が分かれている。これについては、新病院への移転に合わせて、取り組まれてきたことと思うが、現在はどういう状態か。

（事務局経営企画課）

医師確保は概ね順調に進んでおり、現在51名である。ただ、診療科の偏在の問題もあるので、今後も継続して医師確保に取り組む必要があると考えている。

(会長)

基本的には計画どおり進んでいるということで、評価は「○」としたい。

「スペシャリストの育成」に関して、委員からあった、専門資格の取得状況にばらつきがあることの理由についての事前質問に対する回答をお願いしたい。

(看護局長)

項目によっては資格取得のハードルが高く、県外で半年以上の研修受講を要する資格もあることから、人員の選定が困難な部分はあるが、今後、上手く調整したいと思っている。

(薬剤局長)

多くの資格で時間外の研修が必要となっており、人員の対応が難しいことから、目標達成に至っていない。研修が夜にあることも多いが、当直業務との兼ね合いもあり、調整が難しい場面も多い。

(会長)

最近では、薬剤師の働き方についても、非常に重要視されてきている。スペシャリストとしての専門性と、病院勤務の薬剤師の本来的な業務との兼ね合いを、部署内、病院内で検討することも必要となってくるのではないかと。

(委員)

資格取得等に対する病院の姿勢は、職員の募集にも影響を及ぼす部分である。高松市立病院の補助の程度は、他病院と比べてどのようなレベルなのか。

(管理者)

計画的に認定看護師等の人材を育成していくため、研修計画を策定しており、それに沿って申請があったものには、全て補助している。

(局長)

職員の研修等に対する経費については、他市に比べ多く予算をとっており、人材育成に対するの予算措置は手厚く行っている。

(会長)

他県の事例で、大都市の病院から、家庭医の育成を目的として、県外の高齢化の進んだ小さな町に医師を派遣する取組をされていた。大都市もいずれは高齢化していくが、その状況を先取りして医師の育成を行うことができる、先進的な取組である。高松市の場合、塩江地域があるため、同じ市内でこのような取組も可能である。そういった点も含め、スペシャリストの育成について、改めて検討されてはどうか。

様々な事情はあると思うが、計画として記載された以上、頑張って取り組んでいただきたい。自己評価で「△」や「×」とされた項目も多いことから、評価を「○」とすることは難しい。「スペシャリストの育成」の評価は「△」としたい。

次に、「医療品質の向上」について、「◎」が3、「○」が5と割れているが、御意見はどうか。

(委員)

医療品質という点で言うと、最近ではCT画像の見落としや、主治医と放射線技師との連携不足といった問題がニュースとなっている。市立病院において、そのような対策はどのようにしているのか。

(みんなの病院副院長)

全国的に放射線部門と医師との間での情報連携について問題が多くなっているが、当院では、必ず読影結果を紙に打ち出し、医師がチェックするまで、紙が残るという方法をとることで、見落としが起きないように取り組んでいる。また、細菌検査や病理検査、血液検査等も含め、電子カルテ上で医師が確認しないといけないシステムを作っている。

(みんなの病院長補佐)

紙で出す、ということで医者だけでなく、コメディカルも含めて見ることができ、より安全性が高められている。

(会長)

コストをかけてでも、患者の安全をより高めるという良い取組をされており、それは評価できるので、ぜひ委員にも分かるように、項目に記載していただきたい。

(副会長)

見落とし等があったケースの検証についても、積極的に取り組まれているのか。

(管理者)

実際に似たような事例が起きたため、臨時の医療安全委員会を開き、紙出力の取組を行うようにしたものである。何か事例があった時には医療安全委員会を開き、その都度対策を立て、対応している。また、年に一度外部から先生を招き、医療安全検討会を開催しており、医療安全の担保については、積極的に取り組んでいる。

(会長)

今説明いただいた、記載されていない項目を高く評価して、「◎」としたい。ぜひ今後も取組を進めてほしい。

その他項目については、委員評価はほぼ揃っているようである。

市民病院の総合評価としては、事務局案は「○」だが、経営的な問題等も含め、委員の皆様の意見はどうか。

(委員)

計画どおりに進んでいると評価し、「○」で良いのではないか。

(委員)

経営的な問題もあり、「◎」は難しい。

(会長)

それでは、総合評価は「○」としたい。

次に塩江分院について、「医師等の確保機能の強化」で意見が分かれている。

(委員)

必要な医師が確保できているか、という事が評価の上で一番重要なポイントだと思うが、今のところ、医師が足りないという状況ではないのか。

(塩江分院長)

今現在、医師が充足しているという状況ではないが、香川大学、寄附講座との連携で若い先生が塩江分院で経験を積む環境が整っており、将来に向って医師を確保していく仕組みは構築されている。

(会長)

長期的な展望を持って活動されており、成果が出るのは先ということなので、現在は「○」という評価にしたい。

未収金の項目について、未収金の発生・回収に関する事前質問が出ているため、回答をお願いしたい。

(塩江分院長)

高松市との合併前後の古い未収金が多く、最近のものは少ないと聞いている。

(委員)

未収金は時効が3年であるため、古い未収金は帳簿から落とすという処理が必要ではないか。未収金というのは、半年も経てば回収率は下がるため、発生させない、発生したらすぐに回収する、ということをご心掛けていただきたい。

(会長)

古い未収金をずっと帳簿に残しておくというのは不健全である。事務処理は進んでいるのか。

(事務局医事課)

市立病院全体として、高松市債権管理条例に基づき、順次不能欠損として、帳簿から落とす方向で処理を進めているところである。

(会長)

総合評価について、事務局案は「○」であり、昨年度評価「◎」から一段階下がっている。これは「地域医療の推進」の項目の評価が下がったことが影響していると思われる。訪問事業の自己評価がほとんど「△」となっているが、この部分は塩江分院の根幹を成す重要な分野であるが、この点についてはどうか。

(塩江分院長)

訪問事業については、地域住民の減少により、実施件数が低下したために自己評価を「△」としたものであり、事業内容や患者に対するサービスは変わりなく実施しているところである。

(委員)

今回評価が下がっている部分は、スタッフの減少により目指す医療が提供できなかった等の、病院側の理由ではなく、地域住民の減少による影響だけであるなら、「◎」でも良いのではないか。

(副会長)

難しいところではあるが、やはり自己評価で「◎」が大半を占めていなければ「◎」と評価しづらい。「○」が良いと思う。

(会長)

今回、塩江分院の自己評価は厳しく付けられているという印象であり、委員の評価も分かれている。確かに地域住民の減少という点もあるが、まだ何か他にも取り組めることがあったのではないか、という見方もある。今後への期待も込めて、総合評価は「○」としたい。

最後に香川診療所の評価である。香川診療所はその役割を終えたが、様々な取組はみんなの病院に引き継がれていくと理解している。

委員からの医療事故等の公表が「◎」でないことの事前質問について、回答をお願いしたい。

(事務局経営企画課)

「医療事故等の公表」の項目については、取組内容として、「医療現場における安全管理の向上と事故防止」が掲げられており、29年度中に針刺事故が1件あったために、自己評価を「○」としたものである。医療事故の公表が出来ていないという評価ではない。

(会長)

具体的な実施内容が「医療事故等の公表」となっており、その自己評価が「◎」でないと、事故等が公表されていないかのような印象を受ける。誤解のない表現の方法について、検討していただきたい。

香川診療所においては、私のカルテの発行数も多く、地域に密着した取組が積極的にされており、高く評価できることから、総合評価としては「◎」としたい。

(2) その他

高松市立みんなの病院の移転開院後の状況について、管理者より説明。

(委員)

他県で同じように新しく開院した病院において、患者数が急増したことで、会計が遅い、待ち時間が長い、といった不満が多く出ている事例がある。みんなの病院も、今までとは違う対応、事務のやり方をとっていかなければ、患者からの不満が出てくるのではないか。

(会長)

病院に勤務していた時に、患者数の急増を経験したことがあるが、患者の捌き方、情報の流し方など、従来のやり方に捉われず、様々な部分を変えていかねばならなかった。みんなの病院においても、最適な働き方を工夫し、どんどん変化していく組織になっていただきたい。

(委員)

まさにそのような事例があり、先日管理者とお話をしたところである。

(管理者)

委員の御指摘のような事例が実際に発生しており、特に9月は非常に大変だったが、次第にスタッフも新病院での業務に慣れてきたことや、応援体制の構築等により、現在はかなり改善されている。まだ不満の声をいただくこともあるため、その都度柔軟に対応していきたい。

(会長)

救急についても、この数字を見ると市民からの信頼が厚くなっているのではないかと思う。今後は3次救急との連携も深め、一層取り組んでいただきたい。

(委員)

良くする会委員は高松市立病院の応援団でもあり、広告塔でもある。ぜひ院内見学ツアーといったものを提案していただきたい。また一般市民向けに、病院見学会をイベントとして企画してはどうか。

(みんなの病院事務局長)

8月5日の開院式典を催した際、一般市民向けの病院内覧会については実施したところである。

(会長)

市民「みんな」に開かれた、「みんなの病院」としてのやり方を期待したい。

それでは、本日の協議を踏まえ、修正を行い、総括評価を取りまとめることになるが、その作業については一任いただきたい。

以上で、平成30年度第2回の高松市立病院を良くする会を閉会する。

閉会 16:30